

平成 24 年度

# 病害虫発生予報第 6 号

平成 24 年 10 月 25 日

## 三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/>

## 目 次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠	5
4. 予察項目の見方	8
5. 今月のトピックス(カンキツのカタツムリ類について)	9
6. 気象のデータ	10
7. おしらせ	12

## 1. 向こう 1 か月の予報と対策

### 1) 果樹

カンキツでは、ミカンハダニの発生量は**やや少**と予想されます。

### 2) 茶

チャでは、カンザワハダニの発生量は**平年並**と予想されます。

### 3) 野菜

トマトでは、疫病の発生量は**平年並**と予想されます。

イチゴでは、ハダニ類の発生量は**やや多**と予想されます。発生を確認したら、

できるだけ早期に薬剤防除を行ってください。うどんこ病の発生量は**平年並**と予想されます。炭疽病の発生量は**やや少**と予想されます。

ハクサイでは、白斑病の発生量は**平年並**と予想されます。

キャベツでは、黒腐病の発生量は**平年並**と予想されます。

ネギでは、シロイチモジヨトウの発生量は**平年並**、ネギコガの発生量は**やや少**と予想されます。

野菜共通では、コナガ、ハスモンヨトウの発生量は**平年並**と予想されます。

## 2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						10月	11月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
カンキツ	ミカンハダニ	—	やや少	中	普通	成ダニ密度				<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 1葉当りのハダニ雌成虫数が、0.5～1.0頭にならなければ防除の必要はありません。</li> <li>2) 中晩柑類で袋かけをする品種では、作業にかかる前に必ず発生状況を確認し、必要に応じて防除を行ってください。</li> </ol>
チャ	カンザワハダニ	—	平年並	小	普通	成ダニ密度				<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生息密度は低いですが、多くの圃場で発生が認められます。</li> <li>2) 葉裏に生息していますので、丁寧に防除しましょう。</li> <li>3) 抵抗性が発達しやすいため、同一系統の薬剤の連用は避けましょう。</li> </ol>
トマト	疫病	—	平年並	小	普通	発病密度				<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 発病後の病徴の進展が非常に早いので、初発生を確認した場合には集中的に薬剤散布をしてください。</li> <li>2) 20℃ぐらいの比較的低温で多湿条件の時に発生が多くなります。</li> <li>3) 病原菌は、被害植物の残渣とともに土の中に残り、伝染源となります。被害株および枯死株は圃場外に持ち出し処分してください。</li> </ol>
イチゴ	うどんこ病	—	平年並	小	普通	発病密度				<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ビニールの被覆後、発生が増加します。</li> <li>2) 予防防除に重点をおいて薬剤散布をしてください。</li> <li>3) 発病を認めたときは、葉裏に薬液がかかるよう、下葉を除去して丁寧に防除してください。</li> </ol>
	炭疽病	—	やや少	小	普通	発病密度				<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 感染した苗は、本圃定植後に発病します。</li> <li>2) 発病株は除去し、圃場外へ持ち出して適切に処分してください。</li> </ol>

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						10月	11月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
イチゴ	ハダニ類	—	やや多	小	普通	成ダニ密度				1) 天敵を利用する場合は、発生密度の低いうちに導入し、農薬は天敵への影響を考慮して使用してください。 2) 薬剤防除では、発生を確認したらできるだけ早期に防除してください。 3) 薬剤をかかりやすくするため下葉を除去し、葉裏までしっかりと散布してください。 4) 抵抗性が発達しやすいので、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。
	ハクサイ	—	平年並	中	普通	発病密度				1) 秋から初冬にかけて、雨の多い時期に多発する傾向があります。 2) 肥料切れすると発病を助長するので注意してください。 3) 発病初期の薬剤防除を徹底してください。
キャベツ	黒腐病	—	平年並	小	普通	発病密度				1) 土壌中の病原菌が雨滴などにより葉に飛散し、感染します。降水量が多いと感染することが多いので、大雨後や特に冠水したときは、速やかに薬剤防除をしてください。 2) 発病株を放置すると翌年の伝染源となるので、圃場外に持ち出して処分してください。
ネギ	ネギコガ	—	やや少	小	普通	幼虫密度				1) 幼虫が葉の内部に潜るので、潜入防止のため、発生初期から防除をしてください。
	シロイチモジヨトウ	—	平年並	中	普通	幼虫密度				1) 若齢幼虫から葉の内部に侵入し、内側から表皮を残して食害します。 2) 老齢になるに従って薬剤の効果が劣るので、若齢幼虫のうちに防除してください。 3) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						10月	11月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
野菜共通	コナガ	—	平年並	中	普通					1) 冬でも緩やかながら生育を続けて加害します。 2) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。
	ハスモンヨトウ	—	平年並	中	普通					1) 老齢幼虫に対しては防除効果が劣るので、若齢幼虫のうちに防除を行ってください。 2) 新芽部を食害されると、生育や収量への影響が大きいので、適期防除に努めてください。 3) 施設ではハウスのパイプや換気口周辺などの資材にも産卵するので、注意してください。

### 3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	ミカンハダニ	—	やや少	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 1か月予報(10月19日発表)によると、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</li> <li>2) 県予察圃(10月中旬)では、100葉当り寄生頭数は無防除区 25.6頭(平年 54.4頭)とやや少、防除区 2.2頭(平年 39.0頭)と少 (—)</li> <li>3) 巡回調査圃場(10月第1～2週)では、発生圃場率 38.5%(平年 36.9%)と平年並、寄生葉率 2.0%(平年 4.8%)と少、寄生頭数 0.02頭/葉(平年 0.10頭/葉)と少 (—)</li> <li>4) 広域防除員による調査(10月上旬)では、概して発生量は少ないが、一部で多発圃場を確認 (—)</li> <li>5) 一般圃場では、発生量はやや少～平年並(概してやや少) (—)</li> </ol> <p>考察：現状の発生量は圃場によるばらつきはありますがやや少と考えられ、大きな増減要因はないので、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
チャ	カンザワハダニ	—	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 1か月予報(10月19日発表)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</li> <li>2) 県予察圃(10月中旬)では、寄生葉率 0%(平年 3.3%、ただし5か年は0%)、寄生頭数 0頭/葉(平年 0.12頭/葉、ただし5か年は0頭/葉)と平年並 (±)</li> <li>3) 巡回調査圃場(10月第1～2週)では、発生圃場率 33.3%(平年 14.0%)と多、寄生葉率 1.8%(平年 1.0%)と多、寄生頭数 0.02頭/枚(平年 0.23頭/枚)とやや少 (±)</li> <li>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</li> </ol> <p>考察：現状の発生量は平年並と思われ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
トマト	疫病	—	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 巡回調査圃場(10月第1～2週)では、発病株率 0%(平年 0%)と平年並に少 (±)</li> <li>2) 一般圃場では、発生量は無～平年並に少(概して平年並) (±)</li> </ol> <p>考察：現状の発生量は平年並に少と思われ、大きな増加要因がないので、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
イチゴ	うどんこ病	—	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 1か月予報(10月19日発表)によると、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</li> <li>2) 巡回調査圃場(10月第1～2週)では、発病株率 0%(8年平均 0.2%)と平年並に少の傾向 (±)</li> <li>3) 一般圃場では、発生量は平年並に少 (±)</li> </ol> <p>考察：現状の発生量は平年並に少と思われ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イチゴ	炭疽病	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(10月19日発表)によると、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(10月第1～2週)では、発病株率0%(平年0.6%)と少 (－)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少～やや少(概してやや少) (－)</p> <p>考察：現状の発生量はやや少と思われ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
	ハダニ類	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(10月19日発表)によると、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(10月第1～2週)では、寄生株率12.8%(8年平均5.5%)、発生程度5.0(7年平均2.5)と多の傾向 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少～平年並(概して平年並) (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並と思われ、巡回調査結果から今後の増加を考慮して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
ハクサイ	白斑病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(10月19日発表)によると、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(10月第1～2週)では、発病株率6.2%(平年7.7%)、発病度1.6(平年2.0)とやや少 (－)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並と思われ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
キャベツ	黒腐病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(10月19日発表)によると、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(10月第1～2週)では、発病株率0.9%(平年0.1%)、発病度0.2(平年0.02)と多であるが、11圃場のうち1圃場でのみ確認 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は無～平年並(概して平年並) (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並と思われ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
ネギ	ネギコガ	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃フェロモントラップ(9月第5半旬～10月第4半旬)では、誘殺数55頭(平年15.7頭)と多 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(10月第1～2週)では、被害葉率0.1%(平年0.5%)とやや少 (－)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少～平年並(概してやや少) (－)</p> <p>考察：現状の発生量はやや少と思われ、今後大きな増加が見込まれる時期ではないので、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
ネギ	シロイチモジヨトウ	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(10月19日発表)によると、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ(9月第5半旬～10月第4半旬)では、誘殺数49頭(平年66.3頭)とやや少 (－)</p> <p>3) 巡回調査圃場(10月第1～2週)では、新葉での被害葉率1.0%(平年4.4%)と少であるが、旧葉で目立った被害を確認 (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並と思われ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	コナガ	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(10月19日発表)によると、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ(9月第5半旬～10月第4半旬)では、誘殺数2頭(平年15.7頭)と少 (－)</p> <p>3) 巡回調査圃場(10月第1～2週)では、ハクサイの寄生株率0.2%(平年0.2%)、寄生虫数0.002頭/株(平年0.01頭/株)と平年並(±)、キャベツの寄生株率1.3%(平年1.7%)と少(－)、寄生虫数0.01頭/株(平年0.02頭/株)と平年並 (±) (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並に少 (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並に少と思われ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
野菜共通	ハスモンヨトウ	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(10月19日発表)によると、平年と同様に晴れの日が多い予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ(9月第5半旬～10月第4半旬)では、誘殺数1764頭(平年1843.7頭)と平年並 (±)</p> <p>3) 巡回調査圃場(10月第1～2週)では、トマトの寄生株率0%(平年0.1%)と平年並に少、イチゴの寄生株率0.8%(平年1.6%)と少、ハクサイの寄生株率0.2%(平年0.7%)とやや少、キャベツの寄生株率1.1%(平年5.0%)と少であるが、一部圃場で卵塊や若齢幼虫を確認 (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並と思われ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>

## 4. 予察項目の見方

### 1)「作物別の状況」の見方

**発生時期(平年比)：** 平年の発生日日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の 5 段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数		-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年発生日	1	2	3	4	5	6	
評価		早	やや早		平年並				やや遅			遅			

**発生量(平年比)：** 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の 5 段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感じることがあります。

				平年値			
度数	10%	20%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並		やや多	多	

**発生量(程度)：** 発生程度を「小、中、大、甚」の 4 段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量(平年比)」と比べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい」が平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よりやや少ないが、依然として発

生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

**要防除圃場率(平年比)：** 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の 3 段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除をしていればいいと予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要な圃場の割合が相当増加すると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか防除しなくても済むような圃場の割合が相当増加すると予想されます。

低	普通	高
---	----	---

**発生消長の一例：** 発生予報は向こう 1 か月の予報ですが、その前後を合わせて 40 日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

**防除の注意事項：** 向こう 1 か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

### 2)「発生時期・発生量(平年日)の予察根拠」の見方

(±)：平年並の要因

(+)：発生量増加または発生時期遅延の要因

(-)：発生量減少または発生時期早期化の要因



## 5. 今月のトピックス「カンキツのカタツムリ類について」

### ◆カンキツでの発生種◆

カンキツではウスカワマイマイとオナジマイマイが発生し、主に果実が加害されます。両種とも成員の殻径は 20mm 程度ですが、オナジマイマイの方がやや小型で殻高が低く、成員の殻口が肥厚します。また、ウスカワマイマイの方が貝殻が薄い特徴があります。

本年は県内の東紀州地域で多発圃場が見られました。三重県での優占種は明らかではありませんが、東紀州地域ではオナジマイマイの発生事例が多いようです(写真 1)。



写真 1. オナジマイマイ幼貝

### ◆被害の様子と生態◆

被害が多いのは 8～10 月頃で、特に加害されやすいのは早生温州です。果皮に 1～6mm の不整形の白斑を生じ、大きい食害痕は中央部が陥没します(写真 2)。ひどい場合は果肉まで食害されることもあります(写真 3)。ナメクジ類による被害と酷似して



写真 2. 果実の食害痕



写真 3. 果肉まで食害された果実

おり、食害痕で判別するのは困難なため、樹上、下草、敷草や石などの下で、生息の有無を確認する必要があります。

成幼貝が浅い土中などで越冬します。春から秋まで活動・産卵しますが、夏の乾燥期等には殻口に膜を張って活動を休止します(写真 4)。

幼貝初期は昼夜とも活動しますが、成長に伴い夜間活動性になります。ただし、雨天などは昼間も活動します。雌雄同体で、どの個体でも交尾により産卵し、浅い土中に数十個の卵塊を数回産下します。



写真 4. 殻口に膜を張り、枝に固着したオナジマイマイ

### ◆発生しやすい条件◆

酸性土壌(pH6 以下)や湿潤な場所を好み、敷草をした圃場や草生栽培圃場で多く発生します。また、8～10 月に雨天が続くと発生が多くなります。

### ◆防除のポイントと注意事項◆

- 1) 圃場管理: 一旦清耕栽培に切り替えたり、風通しや陽当たりを良くしたりするなど、圃場の地表面が乾燥するように工夫してください。また、冬期に中耕して越冬場所を破壊することも有効です。
- 2) 土壌酸度矯正: 多発圃場で土壌 pH6 以下の場合は、石灰施用等により酸度を矯正してください。
- 3) 薬剤防除: かんきつ対象に銅水和剤やチオジカルブ剤、みかん対象にメタアルデヒド水和剤などが登録されていますが、長期間の効果持続は期待できず、特に多発時は薬剤防除だけでは抑制が困難です。上記の耕種的防除と組み合わせた対策が重要です。

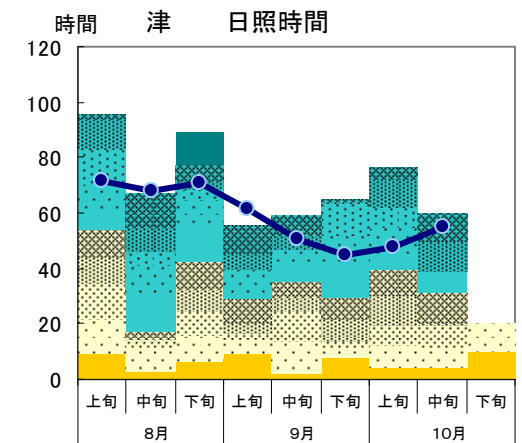
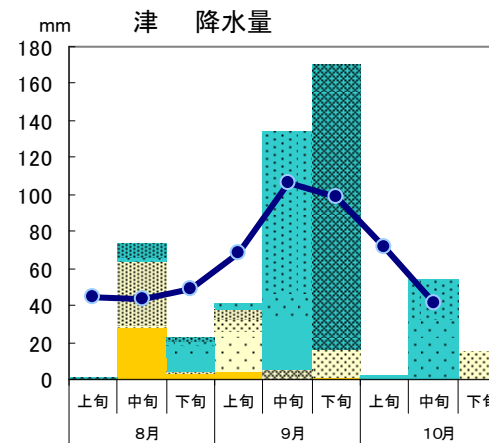
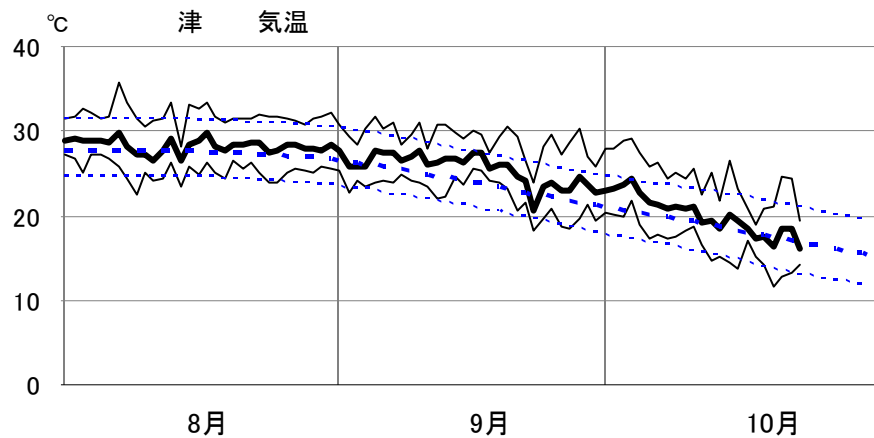
## 6. 気象のデータ

### 東海地方 1 か月予報 (平成 24 年 10 月 19 日 名古屋地方気象台発表)

東海地方の向こう 1 か月は、低気圧と高気圧が交互に通り天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に高気圧に覆われて晴れる日が多い見込みです。2 週目を中心に寒気の影響を受ける時期があるでしょう。特に、期間の前半は気温の変動が大きいでしょう。

1 週目 10 月 20 日～ 26 日	高気圧に覆われて晴れる日が多いですが、期間の中頃は気圧の谷や湿った気流の影響で雲が広がり、雨の降る日があるでしょう。	津の降水日数・晴れ日数の平年値 1.7 日・4.3 日
2 週目 10 月 27 日～ 11 月 2 日	低気圧と高気圧が交互に通り天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすく、平年に比べ晴れる日が多いでしょう。	同 1.6 日・4.3 日
3～4 週目 11 月 3 日～ 16 日	低気圧と高気圧が交互に通り天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に高気圧に覆われて晴れる日が多い見込みです。	同 3.0 日・8.8 日

気象の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成) (10 月 23 日まで)



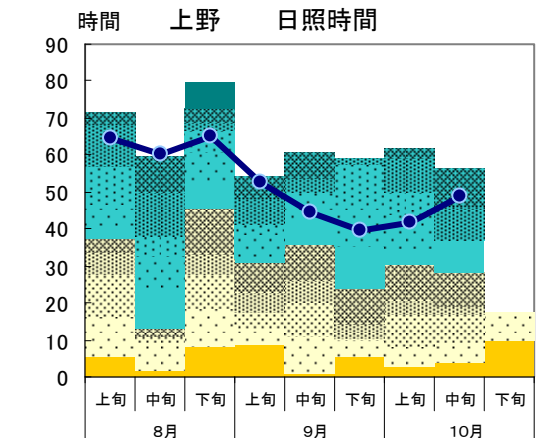
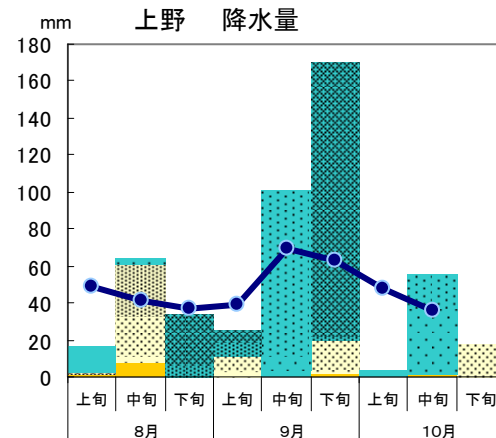
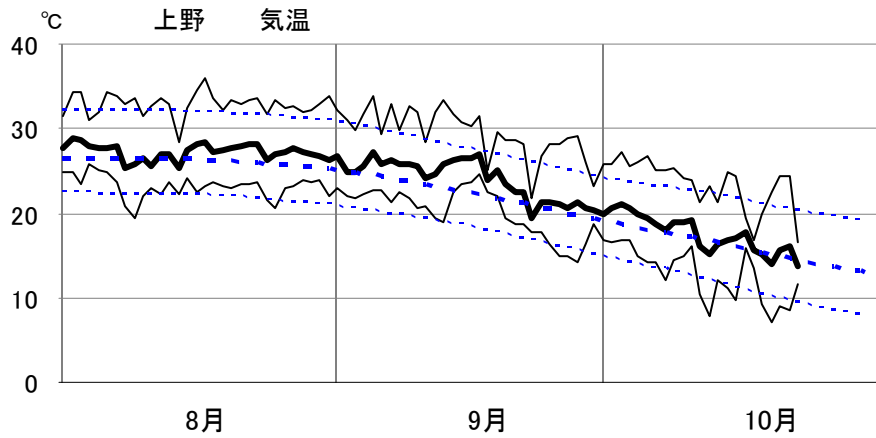
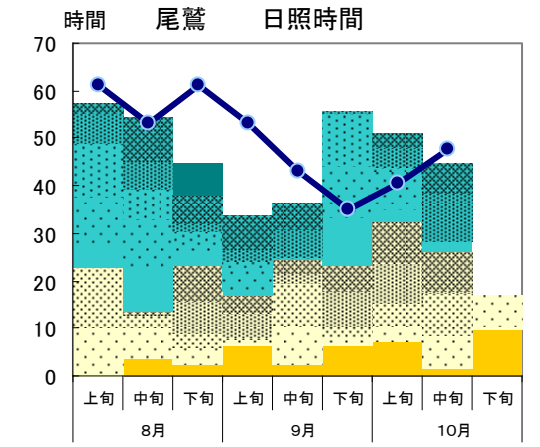
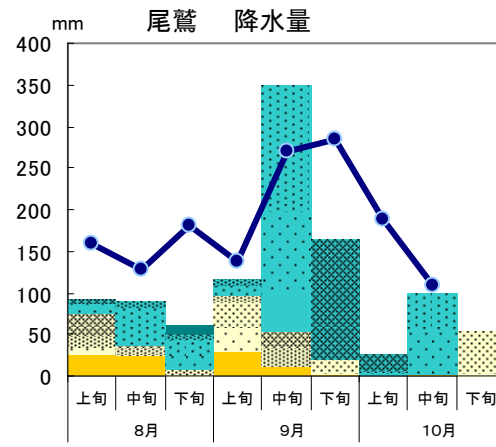
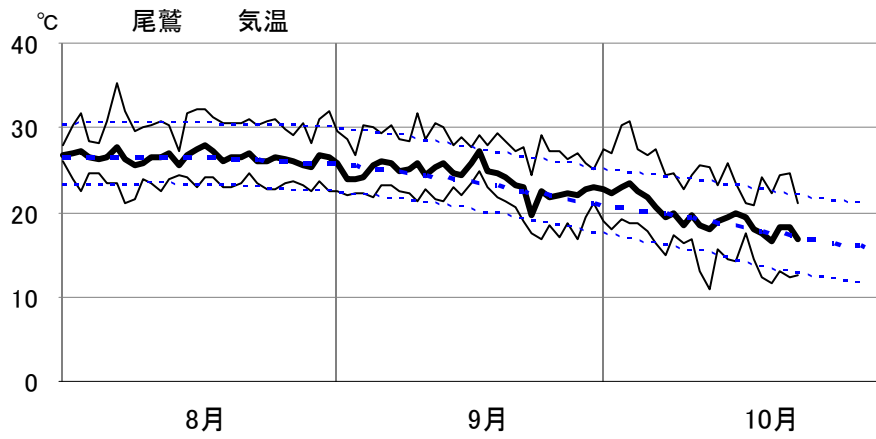
### 東海地方週間天気予報 (平成 24 年 10 月 24 日 10 時 30 分 名古屋地方気象台発表)

予報期間 10 月 25 日～10 月 31 日

向こう一週間は、期間のはじめと終わりは高気圧に覆われて概ね晴れますが、中頃は気圧の谷や湿った気流の影響で雲が広がりやすく、雨の降る日があるでしょう。

最高気温と最低気温はともに、平年並か平年より高い見込みです。

降水量は平年並でしょう。



凡例

- 平均
- 最高
- 最低
- - - 平年平均
- - - 平年最高
- - - 平年最低

凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬平年値

凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬平年値

## 7. おしらせ (前回と異なる項目には **NEW** の印があります)

### 1) 記載基準の注意点

平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

### 2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 第1回 4月26日(済み) | 第2回 5月24日(済み)  |
| 第3回 6月21日(済み) | 第4回 7月19日(済み)  |
| 第5回 8月23日(済み) | 第6回 10月25日(今回) |
| 第7回 3月22日(金)  |                |

### 3) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

### 4) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアドレスからお入りください。

[http://www.mate.pref.mie.lg.jp/Bojyosyo/files/h24yohotebiki\\_.pdf](http://www.mate.pref.mie.lg.jp/Bojyosyo/files/h24yohotebiki_.pdf)

### 5) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

### 6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報提供システム」

[http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)